

28歳の自分を創造する

ライフデザイン教育

学校法人品川女子学院
品川女子学院中等部・高等部

品川女子学院中等部・高等部

品川駅から京浜急行線で一駅、北品川駅目の前の国道沿いにそびえるシッパなブラウンの校舎。品川女子学院は設立当初からこの地で教育活動を行ってきました。

品川女子学院中等部・高等部は、学法人の前身である荏原婦人会が関東大震災後に行ったボランティア活動などが認められ、東京府（当時）などから援助を得て大正14年に設立した荏原女子技芸伝習所を起源としています。同校は完全中高一貫を実施しており、中等部を1〜3年、高等部を4〜6年としています。創立者指針に「志願無倦」（しがんうむことなし）と「明秀端雅」（めいしゅうたんが）を、教育目標に「私たちは世界をこころに、能動的に人生を創る日本女性の教養を高め、才能を伸ばし、夢を育てます」を掲げ、令和7年に創立100周年を迎えます。

時代が進むにつれて共学化した女子校は少なくありません。しかし、同校はむしろ、今こそ女子教育の重要性を再認識する意味を込めて、一時期、校名から外していた「女子」を再び追加し、現在の「品川女子学院」に至っています。このように、同校は時代の変

化に対応してカリキュラムを見直しながら、一貫して「社会に貢献する女子の教育」を行っています。



品川女子学院 国道側校舎

【28プロジェクト①概要】

同校の教育の大きな特徴として、平成15年に開始した「28プロジェクト」（以下、「28 Pm」とする）があります。

28 Pmとは（表参照）、28歳になったときの理想の未来像を生徒自身に考えさせ、必要な知識・学力・能力を身に付けさせる教育活動です。高校を卒業して10年後の28歳という年齢は女性にとって、仕事やプライベートにおい

て様々な選択を迫られる時期です。28 Pmは、単なる職業教育ではなく、目の前の大学進学、そしてその先のライフプランを考える環境を生徒に提供し、生徒の視野・選択肢を広げるものです。この取り組みが評価され、同校は平成26年に文部科学省スーパーグローバルハイスクールに指定されました。1〜3年生では、身の回りから段々と視野を広げ、人格形成を行い、4・5年生はその学びを実践に移します。また、学年を問わず希望者全員が受講できる「特別講座」も設けています。これらの活動は総合学習の時間や放課後を活用しています。

学校法人品川女子学院「28 project」	
全体像	「28歳を仮のゴールと設定し、何を学び、どう生きるのかを考える」
	・28歳の自分を思い描き、それを実現するためには何が必要か、どう行動すべきかを模索し、理想とする未来に向かって大きくアクション。 ・能動的に人生を設計できるようにさまざまな取り組みを支援。
中等部	「18歳だけでなく、28歳もゴールとしてライフデザインを考える」
	1年生 ・身近な関係性を再発見する。「様々な活動の基礎を習得をめざす」 ・身の回りの問題に対して「仮説→検証→解決策の提示」を体験。 ・ICTを活用したアウトプットにも挑戦。 ・教科イオン見学会（施設・公共機関の見学）
	2年生 ・社会の関わりを考える《書付け、茶道、甲斐を通じて、日本文化への理解と知識を深める》 3年生 ・未知の世界を探索する ①地理的な世界で異文化を知る《ユージーランド修学旅行：語学学習の動機付け》 ②仕事という世界を知る《協力企業とのコラボレーション：商品開発や宣伝広報活動を体験》
高等部	4年生 ・教科イオン見学会（施設・公共機関の見学）
	4・5年生 ・企業体験プログラム ・大学出張授業受講（各自が希望した学部・学科の授業を受講）
中・高等部 共通	1～5年生 ・社会人による特別講座（テレビ番組の制作、雑誌の編集など毎年30以上の講座を企画）
卒業後	母校とのつながり・「品川ファミリー」として
	20歳 ・成人を祝う会（地元の成人式に出席後に学校に集合） ・就職情報交換会
	21歳 ・パルティスカシオン、個別相談 （「お父さんの会」の協力により模擬面接を実施）
	28歳 ・ホームカンパニー（「28project」の集大成として現状報告と確認）

◆1年生「身近な関係性を再発見する」
様々な活動の基礎の習得をめざします。総合学習の時間には「デザイン

ン思考」の手法を用い、各自が身の回りに目を向けて見つけた問題に対して、「仮説→検証→解決策の提示」という流れを体験。ICTも活用しながらアウトプットに挑戦します。

◆2年生「社会との関わりを考える」
「他者」の範囲を広げるために、まず自分の源流に誇りを持ち、自らの立ち位置を固められるよう、ゆかたの着付け、茶道、華道を学び、日本文化への理解と知識を深めていきます。

◆3年生「未知の世界を探索する」
「未知の世界」には二つの意味があります。一つは地理的な世界で、異文化を知り、語学学習の動機づけとして全員参加のニュージールランド修学旅行を実施しています。8日間コースと3週間のロングステイコースがあり、毎年9割の生徒が後者を選択。ホームステイしながら現地校に通い、「世界」を体感していきます。もう一つは「仕事」という世界です。協力企業とコラボレーションして商品開発や宣伝広報活動を行い、実社会における仕事を認識していきます（企業コラボレーション）。

◆4・5年生 起業体験プログラム
毎年9月に行われる白ばら祭（文化祭）でクラスごとに模擬店を出店します。4・5年生の全10クラスとして設立し、社長・マネージャ

ー・会計・広報などの役割を割り当て、クラスで決めた企業理念に基づき、本物の会社さながらの取り組みを行います。生徒それぞれが春休みから事業内容を考え始め、事業計画書の作成、資金獲得のためのプレゼン、設立登記を行い、白ばら祭当日を迎えます。白ばら祭終了後に開催する株主総会において、事業報告を行い、利益配当した後、会社を解散します。なお、事業報告は実際に社会で活躍されている保護者の方々の評価を受けています。

◆特別講座（1～5年生希望者）

毎年30以上の講座が教員によって企画されます。その中には生徒が発案した講座も含まれます。社会の第一線で働く方からの講演や実習など、様々な講座が用意されており、単に話を聞くだけの受け身な内容ではなく、アクティブな学びを展開しています。

以上の活動は28 Pm.のうちの一部であり、進路指導などの諸活動も28 Pm.の考えに沿って行われています。

【②導入までの経緯】

現在では、進路選択だけでなく、その後のライフプランを見据えた教育を行う私立女子中学校・高等学校は少なくありませんが、同校が28 Pm.を開始した平成15年当時、大学進学ではなく

その先にゴールを設定した取り組みは珍しいものでした。

同校は他校に先駆けてライフデザイン教育を開始しましたが、これには昭和60年代の中等部の生徒減少に伴う経営危機が影響しています。経営状況の改善のため、前理事長や当時教員であった現理事長を中心に、校名の改称、制服の変更、校舎のリフォームなどを行いました。次に、教育内容の見直しに着手し、「学校としてどのような教育をすべきか」、「社会に貢献する女子の教育はどのようなものか」など、教員による合宿・ワークショップで教育目標を作成し、学校としての意思統一を図りました。この教育目標を土台に、それまで単発で行っていた著名人による講演や職業体験などを体系化し、28 Pm.が誕生しました。

特に企業コラボレーション、起業体験プログラムは、生徒が実社会を身近に感じ将来をイメージしやすくなる、注目すべき取り組みです。現在は生徒からも取り組みに対する提案があり、各学年の個性に合ったプログラムを生徒と企業が協力して作り上げるなど、常に進化を遂げています。

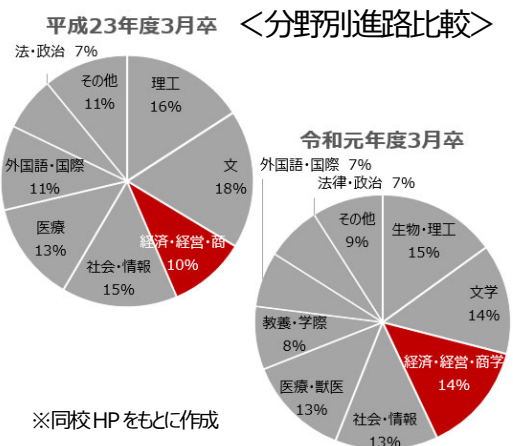
【③成果】

主に三つの成果があります。一つ目にコラボ商品の発売です。これまで取り組みから生まれた商品が、駅ナカやスーパーマーケットなどで、

期間限定で発売されました。また起業体験プログラムや同校の様々な活動から生まれた商品が、学校近くの洋菓子店「孝庵」で常時販売されています。

二つ目に生徒の進路選択の多様化です。分野別進路について、10年前と比較すると、特に経済・経営・商学系の割合が増えています（円グラフ参照）。これは、特に企業コラボレーションや起業体験プログラムでの経験が大きく影響しています。生徒は自分のライフプランの構築と実現のためには何を行動すべきかを考えられるようになり、安易な進路選択、思い込みの進路選択をせず、多様な選択肢の中から自分の未来像をはっきりと描けるようになりました。

＜分野別進路比較＞



三つ目に外部からの評価です。28 Pm.は社会に出たときに必要な能力を習得できるプログラムとして、企業や保護者から高く評価されています。

【④今後の展望】

28 Pm.を開始した平成15年～22年入学のOGを対象に、「28 Pm.や在校時の活動が現在のキャリアにどのような影響を与えているか」、「キャリアに対する考え方」などについて、令和2年11月にアンケートを行いました。アンケート結果は学内で内省し、28 Pm.の更なる充実に活かす予定です。

【広報部長からのアドバイス】

Q ライフデザイン教育を導入したい学校へのアドバイスは？

A 地元を活用することが重要です。コラボ先は身近なところに埋まっている、本校でも区役所や地元商店街、品川ケーブルテレビなどと連携しています。その際、地域の方々の協力を得て、一緒に作り上げることがポイントです。

取材を終えて

地域貢献をきっかけに設立された品川女子学院は、現在も周辺地域との関係を重視していること、また教員の方々が原点である教育目標を常に意識して教育活動を行っていることを実感しました。新校舎の建設など環境整備と教育内容のさらなる充実を図っており、今後も自身の将来ビジョンをしっかり持ち、社会に貢献できる女性を輩出していくことが期待されます。

（取材）私学経営情報センター